

暮らしの中のダニ

1988
作品ナンバー0280

文部省選定 厚生省推薦 科学技術庁推奨 第29回科学技術映画祭
科学技術庁長官賞 第26回日本産業映画・ビデオコンクール奨励賞

小児喘息の原因の90パーセントは室内のダニだといわれる。高温多湿の日本で、最近の住宅は温度を逃さない工夫と共に湿気も室内に閉じこめてしまった。地上に数万種類以上といわれるダニだが本当の姿はほとんど知られていない。そのダニの生態を初めて明らかにした。



この頃、喘息に苦しむ子供が増えている。室内の塵の中のヒョウヒダニのフンや死骸が主な原因といわれている。住居の塵を集めて調べてみると、夥しい数のダニが見つかる。その90パーセントまでがヒョウヒダニである。このダニは、刺すことはないが人のあかやフケ、食物のカスなどを好んで食べる。ケナガコナダニは、水分を含んだ畳の中で畳の髄やカビを食べて繁殖する。

戦後、鉄筋コンクリート造りの住宅団地の畳から、白い粉を吹いたようにダニの大群が出てくる事件が多発した。イエダニは昔、ネズミが走り回る天井から落ちてきてヒトを刺した。また、チョコレートや七味唐辛子の中から見つかったこともある。これらのダニを捕まえて食べるのがツメダニである。ツメダニは人を刺すともいわれているが、「ダニに刺された」と皮膚科にやってくる人たちの99パーセントは、ダニに刺されたのではない。ダニ・ノイローゼが増えているのも最近の特徴といえる。現在の生活の中では、様々な条件がダニの大量発生を促している。昔からの風通しのいい家が減り、新建材で家を密閉する冬型のすまいが増えてきた。それに夫婦共働きや長期旅行等で家を閉めきったり、掃除をおろそかにすることがダニの発生を招く。ダニの予防には、室内を清潔にし、風通しを良くしてダニが繁殖しないような環境作りが大切である。

記録
16ミリ
カラー／30分

- 企画
中外製薬株式会社
- 監修
東京大学名誉教授・厚生省〈ダニ問題研究会〉座長 佐々 學
- 指導
東京医科歯科大学医学部皮膚科
大滝倫子
群馬県立がんセンター・東毛病院小児科
館野幸司
(財)日本環境衛生センター生物部
田中生男
東京女子医科大学寄生虫学 松本克彦

スタッフ

- 製作
村山英治
村山英世
- 脚本・演出
土屋信篤
- 撮影
西山東男
三室清文
- 照明
重田清三
- 選曲
山崎 宏
- 解説
伊藤悠一

